



5 月 号

平成 29 年 5 月 25 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

学校は、地域みんなのもの

校 長 水 口 悟

紅花栄う（べにばな さかう 小満・次候）

紅花がいちめんに咲くころ。化粧の紅がとれる花摘みは、ちくんととげに刺されながら。

（新暦では、およそ五月二十六日～三十日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）

中学校に入学した子どもたちが、毎朝、一生懸命に自転車をこぎながら、また、にこにこお喋りしながら中学校へ向う姿を見る度に「いいなあ。頑張ってるなあ。」と、思わず笑顔になります。

こんこん。「校長先生、おはようございます。入ってもいいですか。」可愛らしいノックと礼儀正しい挨拶。特に、これといった用事はなさそうだけれども、ちょっと顔を見に来たよ、といった感じです。ときどき、低学年の児童が校長室を訪問してくれます。「学校は楽しい?」「今日のめあては、なに?」「得意な教科はなに?」……。ついついたくさんのことを質問してしまいますが、にこにこして答えてくれます。「また、来てね。」「わかりました。」……。子どもの身近にある校長室。とても大切であることを学びます。

11日には、小学校を会場とし、保育園と小学校と中学校の保護者・地域の関係者16名の方々にお集まり頂き、授業参観をした後に保小中合同の運営協議会を開催しました。名称は硬いのですが、地域の方々に、1年間を通して保育園も小学校も中学校も参観して頂き、地域の方々に地域の子どもたちの12年間の育ちをざっくばらんに交流することが目的の会です。昨年度までのスタイルを改善し、新たにスタートした会です。

みなさん一人一人が、ふるさとに・ふるさとの子どもに・学校に……。対する思いや期待を語られる姿に、感銘し感謝心を新たにしました。時間でした。荘川の結いの心さえあれば、まだまだできる!と思いました。学校は、学校教育のすばらしさをもっと発信しなければいけないと感じました。

学校は、敷居が高いとよく言われます。学校の先生方は忙しいので、なかなか気軽になんて行けないと言われます。担任の先生方は、終日、子どもたちと向き合う大切な授業がありますが、校長は時間があります。校長室を訪れる低学年の子どものように「ちょっと顔を見に来た」という感覚で、是非とも、みんなの学校を覗きに来てください。ひねり祭り、鮎釣り、山菜採り、子どものこと、地域のこと、たくさん教えてください。こんな夢もあんな夢も聞かせてください。学校は、学校の子どもたちは、地域みなさんのものです。本校は、「郷土を舞台に夢に向かいともに歩む学校」をめざしています。決して、質問はいたしません。

◇ひとり歩きのできる子は、ふるさとのすばらしさを感じられる子

5年生が荘川桜の写生に出かけました。子どもたちと、また将来のふるさとをつなぐための大切な郷土学習です。前日とは異なり、とても穏やかな日でした。風もなく、御母衣湖の水面も静かでした。担任の先生方と中学校の専科の先生の引率のもと、子どもたちは、それぞれの場所から荘川桜を描き始めます。今年は咲かない年だと聞いていましたが、それはそれで実にすばらしいと、幾度も取材に訪れた中京TVの方々が話しかけてくださいました。「よく、この場所へ移植されたなあ。」当時の人々の思いを必死に想像してみます。13名の子どもたちは2本の荘川桜に見守られ、2本の荘川桜の生き様を一心に描き、荘川桜物語を学習します。春夏秋冬のすばらしい季節感の中で、子どもたちは豊かな感性や感受性を育みます。TV番組の内容もすばらしかったです。やっぱり桜物語は奥深い。荘川桜は荘川の宝物です。